

1. 事業構想評価

(1) 事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目標	メニュー	指標	開始年度	目標年度	達成状況												備考				
					1年目(開始年度)			2年目			3年目			4年目				5年目			
					目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		目標値	実績値	達成率	
林業・木材産業の生産基盤強化	高性能林業機械等の整備		労働生産性(m <sup>3</sup> /人・日)の増加率	R5	R9	20%	9%	45%	20%			20%			20%						
	木材加工流通施設等の整備		地域材利用量(m <sup>3</sup> )の増加率																		
	木造公共建築物等の整備	木造化(補助率1/2以内)		事業費当たりの木材利用量(m <sup>3</sup> /百万円)		R5															
		木造化(補助率15%以内)																			
		木質化																			
	木質バイオマス利用促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備		事業費当たりの木質バイオマス利用量(m <sup>3</sup> /百万円)																	
		木質バイオマス供給施設整備																			
木質バイオマスエネルギー利用施設整備																					
再造林の低コスト化の促進	低コスト再造林対策		人工造林面積のうち、人工造林のコスト低減を図る取組の面積割合(%)																		

(注)

- 1 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 3 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 4 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 5 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。  
なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

2. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率(%)	年度	
森林資源の保護	森林資源保護の推進	抵抗性マツの植栽本数	1100	本	R5	1100	本	R6	816	74%	R6	実績報告
		造林地におけるシカの捕獲頭数	30	頭	R5	40	頭	R6	24	60%	R6	実施期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日 ICTセンサーおよびくくり罠の設置
	森林環境保全の推進	森林保全巡視指導員の資質向上のための研修の実施	3	回	R5	3	回	R6	3	100%	R6	地方事務所への聞き取り
林業の多様な担い手の育成	事業全体	素材生産量の向上(目標値)	301	千m3	R5	330	千m3	R6	312	95%	R6	R7.8.15 R6素材生産量調査
	人材の確保・育成・定着	新規就業者数	35	人/年	R5	50	人/年	R6	45	90%	R6	R7.7.25 森林林業局調べ
	労働安全の確保	労働災害発生件数(減少率)	11	件	R5	8	件	R6	13	62%	R6	R7.7.24 鳥取労働局から報告

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績/目標値とすること。ただし、現状値より数値を縮減する(減少させる)ことを目標とする指標については、目標値/目標年度の実績とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2) 総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林資源の保護	鳥取県米子市弓ヶ浜半島の保全松林を松くい虫被害に強い松林にするため、マツ枯れ跡地に抵抗性マツを植栽した。目標に対し松枯れ跡地への植栽すべき区域が小さくなったため、達成率が74%となったものであり、必要ある区域は植栽できている。	本事業で植栽した抵抗性マツが順調に生育するよう下刈り等の保育作業を行っていく。
	森林保全巡視指導員の巡視によって不法投棄、森林病害虫被害の早期発見、山地災害の未然防止等に寄与した	引き続き巡視指導員による巡視を継続し、森林病害虫被害や不法投棄の早期発見及び山地災害の未然防止に努めていく。
	くくり罠の設置箇所の本事業で購入したICTセンサーを合わせて設置したことにより、罠設置箇所の巡視に係る人員は削減できた。一方で、令和5年度から野生イノシシの豚熱感染が急増し、令和6年度は野生イノシシへの経口ワクチン散布区域が拡大したため豚熱対策にシカ捕獲に係る人員を割られることとなり、シカ捕獲ICTセンサー及びくくり罠を一定期間解除せざるを得なかった。また、前年に引き続き暖冬化に伴い、鹿の生息域が広域化し、造林地周辺の捕獲頭数も結果的に減少したこともあり、目標としていた捕獲頭数40頭を下回ることとなった。	造林計画地の奥地化に伴い、くくり罠及びICTセンサーの設置箇所を変更し、合わせて罠運搬設置に係る人員(班編成)の見直しを図る。 他事業と連動して作業を行う場合でも、ICTセンサーおよびくくり罠を解除せず巡視と並行して作業を推進する。 なお、令和7年度は9月30日時点で29頭捕獲済みであり、年間で目標頭数の40頭以上捕獲予定である。
林業の多様な担い手の育成	・移住定住フェア等への参画により、一定の新規労働者を確保でき、概ね目標を達成した。	・素材生産量の向上させるため、引き続き担い手確保対策に努めていく。
	・林業労働安全の確保に取り組み、振動障害、蜂毒による労働災害の防止を図ることができたが、県内全体の林業労働災害発生件数では目標を達成することができなかった。	・安心安全な労働環境を整備していくため、指導的立場の現場技能員の安全意識の向上させる研修等に取り組み、労働災害の発生件数の縮減に努める。

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。